令和4年度　学校自己評価書・学校関係者評価書

□ ＊の数値(%)は，4段階評価の内，トップボックスの割合
□ ＊の数値(%)の下段(　　)内の数値(%)は，4団評価の内，上位2項目の肯定的評価の割合
□ ＊のない数値(%)は，4団評価の内，上位2項目の肯定的評価の割合

鈴鹿市立神戸中学校

項目	活動指標(改善方策)	成果指標	R2実績	R3実績	R4目標	R4実績
学力向上	Chromebookを活用した学習活動や家庭学習を積極的に進める。	分かり易く授業を工夫してくれているとする生徒の割合	＊44.4% (87.0%)	＊47.4% (90.4%)	＊52.5%	＊46.2% (93.8%)
	2・3年生数学科で習熟度別学習を実施し，学習意欲の向上と学習の定着を図る。					
	学力課題となる「よみとく力」と「あらわす力」を培う授業改善に全教科で取り組む。	授業の工夫，改善を組織的に行っているとする教師の割合	＊73.9% (95.7%)	＊55.1% (95.9%)	＊60.6%	＊61.2% (100%)
	めあてと振り返りの質的向上及び協働的な学びに向けた授業形態の工夫に全教科で取り組む。					

主な取組及び成果と課題

○ 鈴鹿市教育研究会委託研究発表(11/18)を契機とし，学習課題を「よみとく力」と「あらわす力」に焦点化して全教科で実践研究に取り組み，授業改善を進めることができた。生徒アンケートでは，分かりやすく授業を工夫してくれてると回答した生徒の割合は，実践研究実施前の令和2年度に比べ，6.8ポイント上昇した。
○ Chromebook の積極的な活用を進め，視覚効果のある授業実践に取り組んだ。また2学期以降，Chromebook の日常的な持ち帰りを行い，家庭学習や宿題等の提出などでの活用も進めた。
○ 数学科での習熟度別学習を，3年生では前年度に引き続き実施するとともに，2年生でも新たに実施した。保護者アンケートでは，個々の生徒のレベルに応じた教え方をしていると回答した割合は69.2%で，昨年度より12.6ﾎﾟｲﾝﾄ増加した。
○ 教師アンケートでは，めあての提示100%，振り返りの実施93.9%となり，特に，振り返りの実施率は2年前と比べ24.3ﾎﾟｲﾝﾄ増加した。
○ 神戸高校と連携したステップアップスクールを，夏季休業期間中に2日間，12月当初の土曜日に2日間のあわせて4日間実施した。

□ 生徒アンケートでは，授業中，集中できないときがあると回答した生徒の割合は70.8%，授業の中で，今何をしているのかわからなくなることがよくあると回答した生徒の割合は44.5%，主体的に学習に取り組む生徒の割合は63.7%で，いずれも昨年度と比べ低下した。
□ 全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックでは，一定の改善傾向を示すことができたが，自分の考えをまとめることや，理由や考察した結果などを説明するといった内容の問題に弱みが見られる。
□ 家庭学習の時間，読書の時間，ゲームやSNS・動画視聴に費やす時間は，いずれも市のポイントを下回っている。
□ 鈴鹿市教育研究会委託研究発表に向け授業研究が中心となり，授業研究以外の専門性や資質向上を図る研修が不十分であった。
□ めあてと振り返りの定着度は高まったが，生徒に学習の見通しや課題を明確にさせ，学習の定着度を高められるよう質の向上が必要である。

学校関係者評価

〇数学科での習熟度別学習は、そのクラスに合わせた教え方で良かったと思う。英語科でも実施してはどうか。
〇生徒アンケートで「授業中、集中できないときがある」「授業の中で、何をしているのか、わからなくなる」との回答。原因の究明も必要でないか。
〇家庭学習や読書の時間、ゲームやスマホの時間・・学校だけでは限りがあるので、保護者は勿論、中学校区でより連携して問題の解決をはかって欲しい。
〇生徒の成長度合いや教職員の意識の変化について、その成果を測るために今のところアンケートを実施するしか方法がないが、アンケート慣れしている生徒のアンケート結果については、慎重に分析する必要を感じる。
〇「授業の工夫，改善を組織的に行っているとする教師の割合」の結果の振れ幅が大きいことを思うと、指標の立て方そのものに課題があるのではないか。
〇Chromebookの日常的な持ち帰りは，PCに慣れる上で有益であると評価する。
〇神戸高校と連携したステップアップスクールは，回数を計画的に増やしていくことができると良いと考える。
〇新型コロナウイルス感染症が蔓延する中で，ライブでの授業を行うことが困難であったり，休校などで授業を継続的に受講できない生徒がいるにもかかわらず，創意工夫を凝らした授業を行っていたと認識している。
〇神戸高校の生徒と連携したステップアップスクールを，昨年度より多く開催いただいたことを大いに評価します。今後とも継続いただくとともに機会の増加を期待する。
〇家庭学習は，やはり宿題の提出が良いと思う。
〇神戸高校との連携は，今後も続けてほしい。
〇学力課題となる「よみとく力」と「あらわす力」を培う授業改善については，生徒回答の状況から，ある程度改善してきていることが伺える。
〇家庭学習については，家庭での習慣付けが大切と思われることから，保護者及び生徒に対しあらゆる機会を通じ，家庭学習の必要性を伝えることが大切である。
〇神戸高校とのステップアップスクールに参加している生徒の意欲的な姿が見られ，とても良いと思う。
〇授業を参観させていただいて，しっかり先生の話を聞いている生徒とあまり集中できていないかなと思う生徒の姿が見受けられた。
〇特別支援学級での授業では，その子に合わせた授業内容を考えてもらえていると思う。1，2，3学期と集中力も高まっていた。

今後の改善点

〇授業改善に継続して取り組むとともに，生徒を取り巻く様々な課題についての教職員の資質向上につながる研修を計画的に実施していく。
〇Chromebookの活用事例について教職員での情報共有を深め，活用の幅を広げていく。
〇保護者へ家庭学習定着について啓発するとともにChromebookを活用した家庭学習や自主学習を進める。
〇数学科での2・3年生における習熟度別学習を継続して実施する。
〇校区小学校と定期的に指導教諭や学力向上担当者相互による情報交換等を行い，学力向上プランについて協議する。
〇神戸高校と連携したステップアップスクールを継続するとともに地域による支援の在り方について検討する。

項目	活動指標（改善方策）	成果指標	R2実績	R3実績	R4目標	R4実績
長期欠席・不登校の改善	教育相談部会で個別の支援方策を検討するとともに緊密な情報共有を行う。 登校対策教育支援員やスクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー，医療機関等と定期的に情報共有を行う。	先生は良いところを認めてくれていると思う生徒の割合	＊41.3% （85.3%）	＊47.1% （90.3%）	＊52.5%	＊49.0% （91.9%）
	個々の実態に応じた支援方策を検討する。 出身小学校と対応等の情報共有を図る。	自分には，よいところがあると思う生徒の割合	*29.4% （68.5%）	*29.9% （71.3%）	*33.3%	＊37.4% （75.7%）

主な取組及び成果と課題

○ 生徒の良さに目を向けた声掛けや働きかけを大切にしてきたことで，生徒アンケートでは，先生から良いところを認めてもらっていると回答した割合は増化傾向を示し，生徒にも実感として伝わっている状況がうかがえた。また，自分には良いところがあると回答した生徒の割合も増加傾向を示し，生徒の自己肯定感の向上を得ることができた。
○ 校内適応教室を，校内支援教室に名称を改め，通室時間や通室開始時期など，柔軟な対応を行うこととした。
○ 毎週実施する教育相談部会で，長期欠席や不登校改善に向けた支援策を検討したり，確認したりした。また，校区教育相談部会でも，小学校と連携した支援方針を協議した。
○ 校区に配置されたSCやSSWとの連携を生かした相談体制や家庭支援を実施するとともに福祉部局等との連携を進めることができた。

□ 12月末時点で，長期欠席生徒の割合は8.54％で，昨年度に比べて1.28ポイント高く，不登校生徒の割合は5.43％で，昨年度に比べ1.30ポイント高い状況となった。
□ 長期欠席生徒の状況は，病気やその他理由を背景とする生徒の割合が全国のポイントよりも高い実態にあり，医療や福祉分野との連携が一層求められている。
□ 生徒の良さに着目したかかわりを進めてきたが，生徒アンケートでは，先生から良いところを認めてもらっていると回答した割合は，鈴鹿市のポイントに比べ0.6ポイント低い状況にとどまっている。
□ 保護者アンケートでは，学校は生徒が基本的生活習慣を定着させるよう指導していると回答した割合は87.6％で近年ほぼ変化はなく，鈴鹿市のポイントに比べ1.1ポイント低い状況にとどまっている。
□ 長期欠席や不登校が一時的な要因であったり，教師の働きかけで解消した事例もあり，統計的な数値を多様に把握し，詳細な実態把握を行う必要がある。

学校関係者評価

○長期欠席や不登校が教師の働きかけ等で解消した事例もあるならば、教師だけでなく多くの働きかけがあったら良いと思う。
○「学校を休む友人の話を家族にしたら悪く言われた。」という子がいた。他の保護者達の理解も必要。
○生徒の自己肯定感の向上については教員の声掛けや働きかけも大事だが、家庭での声掛けも大きく影響すると思うので、保護者と連携して同じ方向を向いて取り組む必要がある。
○最近の長期欠席者数についてはコロナ禍との関係で分析する必要を感じる。
○長期欠席生徒へのきめ細かな支援等を，教職員が日夜取り組んでいることを評価したい。
○長期欠席や不登校には個別の原因があるため，劇的な解決は望めず，友人関係などの人とのつながりがきっかけとなり，新たな該当者を生み出すこともあると思う。水際での対応を辛抱強く取り組んでいただいていることに感謝する。
○取組を継続することこそ増加を食い止める唯一の手段であると考えますので，保護者や地域と力を合わせて取り組んでいただきたい。
○なかなか対策は難しいが，とにかくコミュニケーションや生徒の声を聞く対策が必要と考える。
○不登校の改善については，様々な取組をされているところではあるが，依然として不登校生徒の割合は減少していない状況である。さらに，実態に応じた登校支援について努力をお願いしたい。
○先生と生徒の関係は，中学校ではとても大切になってくると思うので，先生から良いところを認めてもらえることは，良いことだと思う。
○まだまだコロナの影響や起立性調節障害など，学校での理由以外での欠席もあると思うので，なかなか難しい部分もあると思う。

今後の改善点

○長期欠席や不登校の改善に向けて，教育委員会事務局や福祉部局等と積極的な連携を行い，個別の支援策に取り組む。
○校内支援教室の運用を柔軟に行うことで，生徒の状況に応じた登校の機会を設定していく。
○基本的な生活習慣について，生徒及び保護者への働きかけを積極的に実施する。
○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携協力を生かした個別支援を行う。
○定期的に小学校担当者等との情報交換会を実施するなど，小中連携による支援策を検討する。
○長期欠席や不登校の現状及び改善状況，支援方策などについて教職員との緊密な情報共有を行い，対応への教職員の意識向上を図る。

<table>
<tr><th>項目</th><th>活動指標（改善方策）</th><th>成果指標</th><th>R2実績</th><th>R3実績</th><th>R4目標</th><th>R4実績</th></tr>
<tr><td rowspan="6">人権教育の推進</td><td>いじめの問題や人権問題について教職員の情報共有を迅速で確実に行う。</td><td rowspan="2">クラスで安心して学ぶことができている生徒の割合</td><td rowspan="2">*47.2%
（84.0%）</td><td rowspan="2">*51.4%
（89.3%）</td><td rowspan="2">*53.6%</td><td rowspan="2">＊50.7%
（88.9%）</td></tr>
<tr><td>相談窓口の定期的な周知や，相談体制の機能強化を図る。</td></tr>
<tr><td>人権教育カリキュラムに基づく系統的な人権学習を実施する。</td><td rowspan="2">クラスで人に対する思いやりが大切にされていると捉える生徒の割合</td><td rowspan="2">*36.6%
（77.8%）</td><td rowspan="2">*41.8%
（86.8%）</td><td rowspan="2">*45.5%</td><td rowspan="2">＊39.0%
（85.2%）</td></tr>
<tr><td>いじめの問題に関する生徒会の取組を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="6">主な取組及び成果と課題</td></tr>
<tr><td colspan="6">○ 昨年度に引き続き，2年生でLGBTQの学習会を実施するなど，3年間を見据えた人権教育カリキュラムに基づき人権学習を実施した。
○ 保護者へのアンケートで，学校は人権を大切にする指導を行っていると回答した割合は93.7%で年々増加を示しているとともに，鈴鹿市のポイントを3.5ポイン上回るなど，保護者の理解を得ながら人権学習を進めることができた。
○ 保護者へのアンケートで，学校はいじめや暴力などの問題が起きたとき適切に対応していると回答した割合は85.0%で，前年度に比べ5.2ポイント上昇し，鈴鹿市のポイントも0.3ポイント上回った。
○ いじめ問題への取組の一つとして，生徒会で三重県教育委員会主催のいじめ防止動画コンテストに応募したり，鈴鹿市制80周年記念レガシー事業を活用し「未来につながるメッセージ」を取りまとめ，掲示パネルを作成したり，生徒会主体のいじめ防止の取組を実施した。
○ 学校いじめ問題協議会を毎学期1回開催し，いじめアンケートの状況や学校のいじめの問題への取組状況や対応方針等について協議した。

□ 生徒へのアンケートで，クラスで安心して学ぶことができている生徒の割合や，クラスで人に対する思いやりが大切にされていると捉える生徒の割合は，ともに目標値に至らず，不十分な実態にとどまった。
□ 生徒へのアンケートで，学校に行きたくないと思うことがある生徒の割合は59.3%で年々上昇傾向にあり，鈴鹿市のポイントを3.9ポイント上回ることとなった。
□ 人権課題について教職員の資質向上を図る研修を実施し，人権学習の充実や学校全体で継続的に人権感覚の向上に取り組んでいく必要がある。
□ 人権ネットワークに参加する生徒が年々減少している状況の改善を検討する必要がある。
□ 次年度，ぬくたいフェスタが20回目を迎えることから，改めて学校全体でぬくたいフェスタの意義や取組を浸透させていく必要がある。</td></tr>
<tr><td colspan="6">学校関係者評価</td></tr>
<tr><td colspan="6">〇人権教育は学んで、心にストンと落ちないと実行につながらないから、難しい。学ばなくても、人権感覚の鋭い人はいる。親の考えや育ちの中で培われている場合が多いと思う。
〇学校に行きたくないと思う時、「行きたくない。」事や「理由」を言える友人や教師が必要。聞いた教師は、素早い行動をお願いしたい。
〇「クラスで人に対する思いやりが大切にされていると捉える生徒の割合」は調査項目の中でも一番大事な指標と考えるが、数値が低いことを心配する。「学校に行きたくない」とする生徒のことも含め、全教職員で改善に向けた取組を検討いただきたい。
〇人権学習を積極的に取り組まれており，評価できる。
〇人権ネットワークへの参加者を増加させる取組が必要と思われる。
〇ぬくフェスとはじめとする人権教育の機会が，コロナ禍により縮小したことを残念に思う。
〇思いやりの心は，平素の人とのつながりが育てるものと考えています。常に互いを思いやれるような雰囲気づくりを心がけていただきたい。
〇アンテナを高くし，どんな小さなことも見逃さないようにしてほしい。アンケートも大事にしてほしい。また，家庭との協力も必要と思う。
〇いじめ問題に関する生徒会の取組をはじめ，教員の研修や協議会の開催，そして生徒へのアンケート実施など，幅広く様々な取組がなされており評価できる。ただし，生徒へのアンケートの中で，学校に行きたくないと思うことがある生徒の割合が59.3%と年々上昇傾向にあることは，コロナの関係も起因すると思われるが，懸念すべき状況である。
〇生徒たちの障がい者への理解は，まだまだ難しいと感じる。そこからイジメにつながらないか，不安を感じたりすることもある。人権については，全体で学んでいく必要があると思う。</td></tr>
<tr><td colspan="6">今後の改善点</td></tr>
<tr><td colspan="6">〇人権課題についての教職員研修を実施し，教職員の資質向上を図る。
〇人権教育カリキュラムに基づいた研究授業を実施し，校区小学校等と人権学習の充実について研究協議を行う。
〇生徒会や学年生徒会が主体となった生徒の声を反映させた活動や行事を計画する。
〇人権ネットワークに参加する生徒の広がりに向けた呼びかけや啓発を工夫する。
〇生徒会等，生徒が主体となったいじめ防止の取組や啓発を実施する。
〇生徒の努力や頑張り，成果や伸びに目を向けた承認活動や情報発信を積極的に行う。</td></tr>
</table>

項目	活動指標（改善方策）	成果指標	R2実績	R3実績	R4目標	R4実績
特別支援教育の充実	特別支援教育コーディネーターを要とした支援方策の連絡調整機能の充実強化を図る。 特別支援学級担任，協力学級担任，特別支援教育コーディネーター，介助員等との緊密な情報共有を行い生徒理解を深める。	特に配慮を要する生徒への組織的工夫改善への教師の割合	*39.1% （91.3%）	*42.9% （93.9%）	*43.8%	*49.0% （91.8%）
	保護者に学習や生活場面での伸びや進歩についてこまめに伝える。 保護者の不安や願いを把握する機会を設定する。	教師は，生徒のことをよく理解していると捉える保護者の割合	76.8%	77.6%	79.5%	79.7%

主な取組及び成果と課題

○ 教師アンケートでは，特に配慮を要する生徒への組織的工夫改善を行っていると捉えている割合は増加傾向にある。また，保護者アンケートでは，教師は生徒のことをよく理解していると回答した割合は79.7%で，年々増加傾向を示している。
○ 特別支援教育コーディネーターによる個別の生徒支援やソーシャルスキルトレーニングを実施する時間を設定した。
○ 生徒アンケートでは，困ったことがあれば，学校の先生に相談できると回答した生徒の割合は76.6%であった。また，保護者アンケートでは，子どものことについて学校に気軽に相談していると回答した割合は58.2%で，ともに年々高くなっている。
○ 特別支援教育コーディネーターが中心となり，定期的に特別支援教育学級担任との情報交換会を実施し，生徒理解や指導上の課題等について把握する機会を設けた。
○ 校区小学校の特別支援教育コーディネーターとの連絡会を開催し，校区での早期支援や中学校卒業後の進路選択について共通理解を図った。

□ 教師アンケートでは，ユニバーサルデザインの視点を取り入れ，教室環境の工夫，改善を組織的に行っていると回答した割合が79.2%で，鈴鹿市に比べ0.9ポイント上回っているものの，学校としては昨年度に比べ9.6ポイント低下するなど，再考する必要がある。
□ 教師が，特別支援教育や発達課題に適切に対応するための指導力や資質向上を図るための研修を計画する必要がある。
□ すずっこファイルの活用促進や発達課題への対応を充実させるための組織体制を検討する必要がある。
□ 様々な支援を必要とする生徒についての特性理解や個別支援等について検討したり，共通理解したりする機会を設けるなど，一人ひとりの生徒に応じた支援や生徒理解を充実させる必要がある。
□ 早期からの発達支援を充実させるとともに小学校教員と中学校での特別支援教育について，継続的に理解を深める機会を設けることが必要である。

学校関係者評価

〇もっと卒業後の進路選択を考えた経験をさせるべきだと思っていたが、一人ひとりの生徒の能力を見極める事も大切だと思う。
〇学校の成果と課題は的確で、謙虚と捉える。
〇国がこれまでの一斉授業（学び）から「個別最適な学び」、「主体的な学び」を進める以上、それ相応の教員配置が必要となることを学校現場から声をあげる必要がある。
〇配慮を要する生徒への様々な支援が行われており，年々充実していることを評価する。
〇今後，ハード面（教室等の設備）のさらなる充実が求められると思う。
〇平素の取組が，着実に実を結んでいると思います。委員に特別支援教育に携わる方が加わられ，学校経営に特別支援教育の支援が強化されたことも大きいと思う。
〇より丁寧な対応に心がけて，生徒や保護者に寄り添った教育をお願いしたい。
〇学校運営協議会での話題が少なかったと思うので，協議の機会をお願いしたい。
〇特別支援教育コーディネーターが中心となり，学級担任との情報交換会や連絡を実施するなど取り組まれているが，保護者が生徒の様子を見る機会が十分できなかったように思われるので，保護者の不安や願いを把握し，理解を深めていただきたい。
〇学級担任の先生，特別支援学級担任の先生，どの先生もしっかり相談に乗っていただけるので安心している。
〇小学校から中学校へ上がり，ほとんどつながりを感じられなかったので，小学生の内からもう少し中学校での情報があればと感じた。

今後の改善点

〇特別支援教育に関する教職員研修を実施し，特別支援教育への教職員の資質向上を図る。
〇特別支援学級の取組について，情報発信の機会を広げる。
〇特別支援学級在籍生徒や特別な支援を必要とする生徒の支援策等について，小学校との情報交換を定期的に実施する。
〇保護者と教育活動内容や生徒の状況等について，きめ細かな情報共有を行い，家庭と連携した支援の充実に取り組む。
〇特別支援教育コーディネーター，特別支援学級担任，学年教員との緊密な情報共有に取り組む。
〇学校運営協議会で，特別支援教育についての話題を取り上げ共通理解を深める。

項目	活動指標（改善方策）	成果指標	R2実績	R3実績	R4目標	R4実績
教職員の総勤務時間の縮減	定時退校日の主体的設定に取り組む。 部活動指針に基づき部活動活動時間及び休養日を遵守する。	一人あたりの月の平均時間外労働時間	18.8 時間	19.4 時間	20.5 時間	19.1 時間
	毎月の教職員の勤務実態を提示し，働き方改革への意識向上を図る。 毎月1時間以上の休暇取得を推奨する。	1人当たりの年平均休暇取得目標日数	21.8日	20.0日	22.0日	22.1日

主な取組及び成果と課題

○ 教職員一人当たりの月平均時間外勤務時間は19.6時間（12月末時点）で，コロナ禍以前の勤務時間に比べ減少している。
○ 休暇取得促進に向け，毎月1時間以上の休暇取得を働きかけるなどしたことで休暇取得日数は17.3日（12月末時点）と，近年の状況より休暇取得を推し進めることができた。
○ 毎月定期的に各月の勤務実態について教職員に周知し，総勤務時間縮減に向けた意識向上を図った。また，研究発表を控え，研修主任と学力向上担当とを分け，業務の分散化を図った。
○ 2学期から生徒の欠席連絡や日々の検温報告を，Chromebook又はスマートフォンから実施できる仕組みとし，3学期からは校区で同じ形式の入力フォームとした。
○ 部活動指針に基づいた活動時間及び休養日の設定を行い，生徒アンケートからも部活動は週2回程度休めていると回答した割合は90.3％と，鈴鹿市全体よりも0.2ポイントだが高く，部活度指針が運用された令和元年度に比べると38.3ポイント高くなった。

□ 校務分掌担当の偏り解消や業務の廃止又は見直しが不十分にとどまっていることから，特定教員への業務負担が解消できていない。
□ 会議時間の短縮がなかなか進んでいない実態があり，他の会議等との重複内容の廃止や説明時間の短縮などをさらに意識化する必要がある。
□ 時間外勤務時間が月45時間超及び年間360時間超の教職員を解消できていない。
□ コロナ禍で見直した学校行事のあり方を検証し，より効率的で負担軽減につながるとともに教育効果が得られる内容や方法を検討する必要がある。
□ 教職員の実質的な勤務状況に一層留意し，勤務実態の的確な把握を行っていく必要がある。

学校関係者評価

〇色々と工夫はされているのに、本当に大変だと思う。教育と効率の両立は難しい。子供の頃から「教育には手ま暇とお金がかかる」と言われて育った。
　手間とお金がかけられたらと思う。
〇「先生になりたい」人が増える様な職場になって欲しい。教師は心身ともにゆとりある状態で子供たちの前に立って欲しい（大変な仕事だからこそ）。
〇教職員の業務負担軽減について，様々な支援が行われていることを評価する。
〇学校給食公会計化に伴い，教職員の業務負担がどれくらい軽減されたかを示されることを望む。
〇教育委員会に対し，部活の外部委託策のガイドラインを示されることを望む。
〇働き方改革が推進される中，少しずつ成果が出てきていると思う。
〇個々が，仕事の優先順位を考え，効率的な業務遂行にあたっていただきたい。
〇民間企業での労働時間の経験や事例から，週2日（例えば水曜日と金曜日など）は，定時退校で残業をしないことの定着が必要ではないかと思う。
〇担任の仕事，休日には部活動となかなか休める時間が無いように見受けられる。しかし，部活動も力を入れて取り組んでもらっているので，良い成績が取れているのかと思うとなかなか休日の休暇も難しいのかと感じる。

今後の改善点

〇校務分掌の見直しを行い，業務の平準化や精選を行う。
〇毎月の時間外勤務実績の累積について周知し，年間の総勤務時間を見通した働き方の意識向上を図る。
〇ChromebookやICT機材を活用した事務的業務の負担軽減を推進する
〇学校行事の実施内容や実施法等の見直しを行い，効率的で質の高い学校行事への改善に取り組む。
〇月2回の定時退校日設定や，月1時間以上の休暇取得の取り組む。
〇部活動の地域移行に向けた情報収集等や地域の状況把握を行い，学校としての方向性を検討する。

<table>
<tr><th>項目</th><th>活動指標（改善方策）</th><th>成果指標</th><th>R2実績</th><th>R3実績</th><th>R4目標</th><th>R4実績</th></tr>
<tr><td rowspan="6">学校と地域との連携</td><td>学校運営協議会委員や保護者・地域への積極的な情報発信を行う。</td><td rowspan="2">通信やHPなどで，情報を家庭へ積極的に提供していると捉える保護者の割合</td><td rowspan="2">83.3%</td><td rowspan="2">87.3%</td><td rowspan="2">88.2%</td><td rowspan="2">92.9%</td></tr>
<tr><td>校区小中学校連携各部会での具体的な取組を実施する。</td></tr>
<tr><td>家庭学習定着に向けた学校運営協議会での協議を行う。</td><td rowspan="2">教育方針をわかりやすく伝えているとする保護者の割合</td><td rowspan="2">65.7%</td><td rowspan="2">68.9%</td><td rowspan="2">71.1%</td><td rowspan="2">73.8%</td></tr>
<tr><td>学校支援ボランティアの活用を検討する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">主な取組及び成果と課題</td></tr>
<tr><td colspan="6">○ 毎週1回の学校通信や毎日の学校ホームページでの情報発信などを継続してきたことにより，保護者アンケートでは，通信やHPなどで，情報を家庭へ積極的に提供していると捉える割合は92.9%となり，昨年度よりも5.6ポイント増加し，鈴鹿市よりも7.7ポイント高かった。また，教育方針をわかりやすく伝えているとする割合も73.8%となり，昨年度より4.9ポイント増加し，鈴鹿市よりも3.8ポイント高かった。
○ 特別支援教育への見識や保護者の立場にある方，地域づくり協議会との連携や教育行政等の経験豊富な方を新たに委員になっていただき，学校運営協議会の機能強化を図った。
○ 学校運営協議会委員の方に学校教育活動の状況をよく理解いただいた上で熟議いただくことを考え，毎学期学校運営協議会委員授業参観ウィークや生徒会役員との意見交換会を実施した。
○ 校区学校運営協議会全体会を開催し，「あいさつ運動・交通安全・家庭学習・子どもの健康」の4つのテーマに分かれたグループワークを通じて，校区各学校の状況について共通理解を深めた。
○ 学校運営協議会委員へのアンケートでは，協議の活性化，委員の学校訪問，教育課題の協議などの項目で，昨年度よりも肯定的評価が得られた。

□ 学校運営協議会が主体となる学校支援人材バンク構築など，地域の人的・物的資源の活用に着目した教育活動を検討する必要がある。
□ 学校運営協議会委員へのアンケートでは，教育課題の改善やコミュニティ・スクールの必要認識に課題があると受け止められる。そのため，協議内容の系統性や焦点化を図るなど，教育課題改善への具体的協議として発展を図り，学校運営協議会の機能的で実効性ある活動を目指す必要がある。
□ 校区学校運営協議会全体会での意見交換を反映させ，校区として連携協力して取り組める具体的な動きを検討する必要がある。
□ 校区幼小中学校園の連携による教育活動を進めるため，継続した定期的な部会開催を通じ，幼小中学校園の教育活動への共通理解を深めていく必要がある。</td></tr>
<tr><td colspan="6">学校関係者評価</td></tr>
<tr><td colspan="6">〇学校運営協議会委員の選出の仕方や、学校を開く事に対する努力が継続している。
〇学校運営協議会委員の高齢化も防ぐ必要がある。
〇学校は支援されるだけでなく、地域への支援も考えてはどうか。
〇情報の発信について、最近はSNSが急激に普及していることから、HPの発信効果については慎重に見定める必要がある。
〇学校長を中心に，学校運営の状況を詳細に外部発信されていることを高く評価する。
〇コミュニティ・スクールについて，神戸中学校が市内においてモデル的活動をされていると思うので，これをベストプラクティスとして他校にも参考にしていただくことを望む。
〇神戸中学校は，地域に開かれた学校であると感じています。今後とも，この校風を損なうことなく継続いただきたい。
〇地域と保護者のバランスの良い委員体制だと思うので，今後とも体制を維持いただきたい。
〇学校運営協議会委員と生徒との意見交換も回数を増やし，少人数でのグループで行うなど生徒の本音が聞きたいと思う。
〇神戸中学校区としての活動を進めていきたいと考える。
〇学校と地域との連携については，毎週1回の学校通信や毎日の学校ホームページでの情報発信などにより学校の状況などがわかりやすく，きめ細かく伝えられており，高く評価するところである。
〇たくさん学校通信を発行いただいているので，いろいろな情報を知れて良いと思う。
〇校区全体会の実施は，他地区の情報を聞くことができたので良かった。年1回程度あっても良いと思う。
〇学校運営協議会では，より学校の情報を聞かせていただければと思う。先生の話を実際に聞くことができて良かった。</td></tr>
<tr><td colspan="6">今後の改善点</td></tr>
<tr><td colspan="6">〇学校関係者評価や学校運営協議会での意見を反映させた課題改善内容を焦点化し，具体的な取組につなげる。
〇学校運営協議会員が，学校教育活動の状況をより把握することができる方策を検討する。
〇学校運営協議愛での協議の焦点化や重点化を検討する。
〇校区学校運営協議会としての取組の具体化を検討する。
〇地域による学校支援の在り方についての協議を深める。
〇校区幼小中学校園の連携体制に基づき，教育活動の連携充実に取り組む。</td></tr>
</table>